



大きな志を持って
人生に立ち向かおう

三重県で創立50周年を迎えたeisuによる、「未来の日本を、世界を引っ張るリーダーを!」をテーマとしたメッセージの第2回は、三重県南部の尾鷲より雄飛し、数々のイノベーションを創出して世界の東芝を率い、実業界を先導してきた西田 厚聡(にしだ あつとし)相談役(前会長)と、eisu group CEO山本 千秋との対談です。それぞれの分野でリーダーシップをとってきた二人の言葉は、読者の皆さんにいろいろな示唆を与えることでしょう。(2015年2月9日東京芝浦の東芝本社にて)

株式会社東芝 相談役(前会長)

eisu group CEO(最高経営責任者)

西田 厚聡 × 山本 千秋

「諸君、尾鷲湾は
テムズ川に通じている」 1

山本:お陰さまでeisuは順調に創立50周年を迎えることができましたが、すべてのスタートは、私の身ひとつでただ情熱だけを武器に子供たちに向かい合った、郷里(三重県鈴鹿)での日々でした。あの時から今に至るなかで私を支えてきたのは、人と人の魂が触れ合う「教育」という仕事の素晴らしさと、子供たち一人ひとりの「個」にフォーカスし、そのオンリー・ワンの個性を開花させること、つまり「個への対応」こそ民間教育の使命であるという信念です。子供たち一人ひとりの個性に向き合い、子供たちの心に志の一滴を落とし、自分から「学びたい」と思わせることができれば、子供たちは自分から勉強し、成長していきます。そこで大切なのは、出発点にある志です。子供たちに大きい志と信念を貫く情熱を持ってほしい、そして未来の日本を、世界を引っ張れるような立派な人物になってほしい! そう私は願っています。

西田:私は三重県南部の尾鷲熊野地方の出身です。いろいろ思い出はありますが、志ということで言いますと、尾鷲高校に通っていたとき、私が習ったのではない、もう一人の世界史の先生が、授業が始まる前に必ず言う言葉があると聞きました——「諸君、尾鷲湾はテムズ川に通じているということを忘れないでくれたまえ」と。この言葉がなぜかずっと私の心に残っています。身近

に思える場所がそのまま世界に通じている。地球上で起こることは自分たちの身近なことに直結している。だから大きな志を持ち、広い世界で生きてみよう。私がそう思ったのは、ひょっとしてこの言葉がきっかけだったのではないかと思います。

山本:なるほど、その先生の素晴らしい言葉が、西田さんの心に落ちた一滴となったわけですね! でも西田さんがそれを受けとめ、大きく広げることができたのは、そもそも西田さんの心構えに何か特別なものがあつたからではないですか?

西田:難しいですね、私はそんな特別な心構えはなかったですよ(笑)。でもあえて言うなら、自分の住んでいる環境の中だけに意識が向いては、大きな志は出てこないでしょう。私の場合、本を通じて、日頃住んでいる環境を越えた、大きい別の世界を意識しました。身近な環境を越えた広い世界を意識して初めて、「こんなことができるんだ!」「あんなこともできるかもしれない」と視野も広がるわけですね。それが大切だと思います。視野が広がれば、自然と大きな志も持てると思います。

これからの時代に
生き抜くのに
必須の素養とは? 2

山本:私自身、一経営者として常日頃感じているのは、絶えず緊迫感・緊張感を持って未来に向わなくてはならないということです。たとえばeisuという企業が、子供た

ちにクオリティーの高い教育を責任を持って持続的に提供していくためには、現状維持にとどまらず、未来を見据え絶えず自己変革していかなくてはなりません、それには常に緊迫感・緊張感が伴います。そういう意味では、西田さんがよく言われている”Sense of urgency”という言葉に強く惹かれます。

西田:”Sense of urgency”、普通は「切迫感」「緊迫感」「焦燥感」と訳しますが、それは私が東芝社長に就任した際に言った言葉です。いま、私はそれを「危機意識」と言っています。「危機意識」は、「危機感」とは違います。危機を感じたら、人間なら動物的本能でそれを回避しようとする。でも、危機を何とか克服しようとする、困難だったときのことは忘れてしまう。「危機感」とはそういうものです。私の言う「危機意識」とは、危機的状況になくても平素から意識的に持っているべきもので、先を読んで手を打っていく原動力となるものです。経営者にとって、それはとても大切なものだと思います。

山本:西田さんがよく言われる「応変力」もいい言葉だと思います。「変化に対応せよ」と私も自戒もこめて社員にも言い続けていますが、わかったようでなかなか行動が伴いません。心しなくてはならない言葉ですね。

西田:状況が次々と変わっていく中で、どうしてそうなのかわからないのか? その意味合いを対応する者がよく理解し、本質を洞察した上ですばやく対応する、そんな思いを「応」の字に、そして自分自身もまた変わっていかなくてはならないという思いを「変」という字に込めました。それを併せて「応変力」と言っています。これからの時代を

生き抜く若い世代の人たちに、ぜひ身につけてもらいたいです。

山本:全く同感です。「危機意識」と言い、「応変力」と言い、経営者に限らず、これからの時代を生き抜くうえで人間にとって必須の素養だと思います。

「穏やかな海は
優れた船乗りを育てない」 3

西田:英語のことわざに”Smooth sea never made skillful sailor.(穏やかな海は優れた船乗りを育てない)”というのがあります。今までにない課題に立ち向かうとすれば、必ず大きな困難にぶつかります。でもそれに屈することなく、熱い情熱と堅い意志、勇猛な気概、そして大きな志を持って、人類社会の直面する課題を果敢に克服しようとする。今の若い人々には、そんな人になって欲しいです。

山本:西田さんの仰る言葉は、全て自らの体験によって裏打ちされていますから説得力がありますね。見事です。大きな志を抱いて世界に羽ばたく人の言葉は、きっと子供たちの心に志の一滴を落とし、感動と夢を与えてくれることでしょう。本日はありがとうございました。

この後西田氏に、「これからの時代に求められる教育」についてeisu伊藤奈緒が取材しました。その内容は3月29日(日)に折込予定のmonthly eisu特別編にて掲載いたします。ご期待ください!



株式会社東芝 相談役(前会長) 西田 厚聡 (にしだ あつとし)
三重県・現北町の学校教員の家庭に生まれる。1968年 早稲田大学第一政治経済学部を卒業。1970年に東京大学大学院法政学政治学専攻修士課程修了。イランにて東芝と現地資本の合弁会社に入社。1975年5月に東京芝浦電気に入社する。95年パソコン事業部長。2005年社長。09年会長に就任。14年には相談役となり現在に至る。東芝/パソコン事業を興した功績者であり、「強みないイノベーションの創出」をキーワードに、東芝を牽引した。座右の銘は「実心、実意、実行」。

株式会社東芝 (TOSHIBA CORPORATION) <http://www.toshiba.co.jp/>

TOSHIBA

日本を代表する大手総合電機メーカー。「人を大切にします」「豊かな価値を創造します」「社会に貢献します」を経営理念に、「安全・安心・快適な社会—Human Smart Community(ヒューマン・スマートコミュニティ)」の実現をめざし、社会インフラ・社会生活・家庭生活に直結する商品・サービスの提供を通じて、幅広い分野で社会に貢献する。



eisu group CEO(最高経営責任者) 山本 千秋 (やまもと ちあき)
三重県鈴鹿市生まれ。1964年早稲田大学卒業。1965年4月郷里で「鈴鹿英学学院」を創立。「個への対応」を指導理念に掲げ、民間教育だからこその教育サービスを一貫して追求。「巧運より拙運」を運営方針として三重県55校、愛知県6校、静岡県1校、東京都に1校、福利厚生施設を含め関連施設18ヶ所と、いわゆる太平洋ベルト地帯に幼・小・中・高一貫指導体制のeisu group ネットワークを展開している。座右の銘は「精神一箇事に成らざらん」。

eisu group <http://www.eisu.co.jp/>

eisu

幼・小・中・高一貫指導体制、ハイブリッド指導システムで「個への対応」を追求するeisuは、「人間尊重・SOAR-UP・顧客満足の追求」を基本理念とし、社は「going concern(継続発展企業)」を掲げて、2015年で創立50周年を迎えている。